

## 第8回 都市自治体のモビリティに関する研究会 議事概要

日 時：2017年12月12日（火） 15:00～17:00

場 所：日本都市センター研究室内会議室

出席者：谷口守座長(筑波大学) 関本義秀委員(東京大学) 土方まりこ委員(交通経済研究所)  
松川寿也委員(長岡技術科学大学) 青木保親委員(岐阜市) 酒井俊雄委員(福井市)  
(事務局：日本都市センター)石川研究室長、池田副室長、高野研究員、清水研究員  
加藤研究員、早坂研究員

### 議事要旨

- 鯖江市・盛岡市に対するヒアリング調査の結果を報告した。
- 報告書の骨子案について議論した。
- 今後の報告書のとりまとめに向けたスケジュールについて確認した。

#### 1. 鯖江市ヒアリング調査について

鯖江市総務部総務課総合交通グループに対するヒアリング調査の結果を報告した。

- ・ 鯖江市コミュニティバス「つつじバス」について

1998年より運行していた福祉バスを、一般の利用者が利用できるように拡大する形で、2001年よりコミュニティバス化して運行開始し、路線の見直しなどを経ながら現在に至る。

2017年4月に再編実施計画による系統の大幅な見直しを行ったが、想定よりも利用者数が減少してしまった。利用者が使い慣れたダイヤが変わったこと、全体的なコスト縮減のための土休日の減便など、要因については現在分析中で、今後再度の見直しなどが必要となる。

- ・ バスロケーションシステムなどICTの活用について

バスに搭載されたGPS位置情報をオープンデータ化し、バスの位置をリアルタイムにホームページで閲覧できるようにしている。もともと降雪時などに遅延状況などの問合せ対応が煩雑であったために導入したが、特に学生などの利用者にはよく閲覧されているようだ。

ICカードは導入していないので、利用者のOD特性が把握できておらず、路線再編や交通政策策定にデータを活用することは十分には出来ていない。

#### 2. 盛岡市ヒアリング調査について

盛岡市建設部交通政策課に対するヒアリング調査の結果を報告した。

- ・ オムニバスタウン事業から続く盛岡市の交通政策について

盛岡市では1999年度にオムニバスタウン事業に採択され、ゾーンバスシステムの構築、バスロケーションシステムの導入など事業を実施し、現在のバスネットワークの基盤を構築した。その後2007年度に「盛岡市総合交通計画」、2008年度

には「もりおか交通戦略」を策定し、公共交通利用を促進するための政策を継続的に実施している。

- ・ ゾーンバスシステムについて

ゾーンバスシステムは、中心部から郊外に向かう路線において、郊外の拠点・トランジットセンターで幹線と支線に系統を分離し、幹線では速達性と運行頻度を向上させ、支線ではきめ細かなニーズに対応することを目指すものであり、盛岡市では中心市街地から北東に約7kmに位置する大規模郊外住宅地である松園ニュータウンにおいて、ゾーンバスシステムによってバスが運行されている。

オムニバスタウン事業の実施当初は利便性が向上し利用者数も増加した。現在は減少トレンドにあるが、ある程度は維持できている。ニュータウンに共通する課題として高齢化が進行しているため、今後継続するためにはさらなる再編などの必要性がある。

### 3. 報告書の目次構成・取りまとめの方針について

前回研究会で検討した報告書の執筆分担に従い、各自が作成した原稿骨子案を報告し、全体構成の見直し、章ごとの内容の調整を図った。

### 4. 今後の予定

- ・ 研究会成果のとりまとめに向け、第9回研究会を下記の日程で実施する。
  - 第9回研究会（2018年1月15日）

（文責：日本都市センター）